

(8) 中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善している。

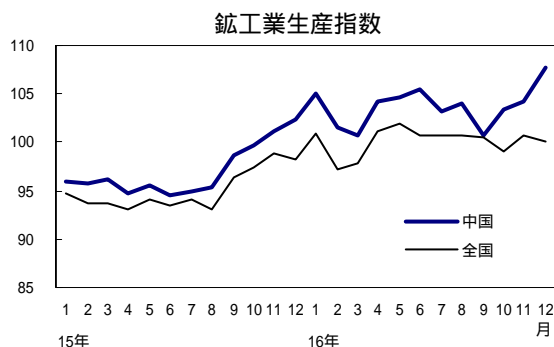
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 16 年 11 月)	今回 (平成 17 年 2 月)	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

化学は、自動車向けの国内需要や、アジア向け輸出を中心に高水準であること等により、増加している。鉄鋼は、国内外の高い需要を背景に高水準であること等により、増加している。輸送機械は、自動車で高水準の輸出が続いているほか、国内販売も好調なこと等により、増加している。一般機械は、産業機械で中国等のアジアを中心に受注があったこと等により、増加している。電子部品・デバイス、携帯電話やデジタルカメラの在庫調整の動きを受けた液晶素子の生産調整等により、減少している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成16年12月の中国は速報値。

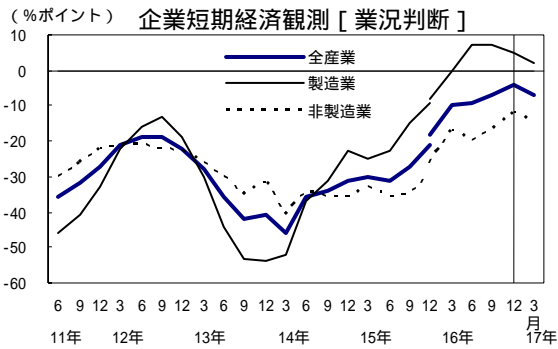
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
化学	17.6	5.3	3.6	0.6	7.0
鉄鋼	12.1	5.0	5.3	8.2	2.5
輸送機械	12.0	7.5	14.6	22.5	49.6
一般機械	10.4	11.0	9.4	7.2	19.2
電子部品・デバイス	7.6	11.7	4.2	3.9	-
鉱工業	100.0	2.1	2.5	4.3	4.7

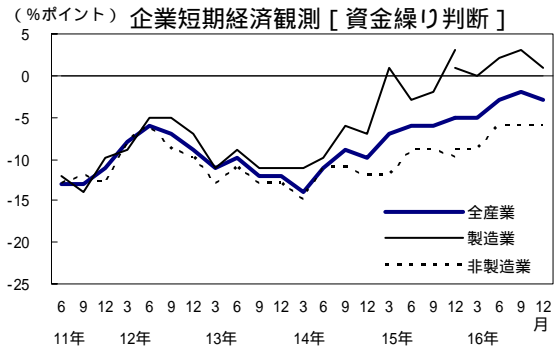
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

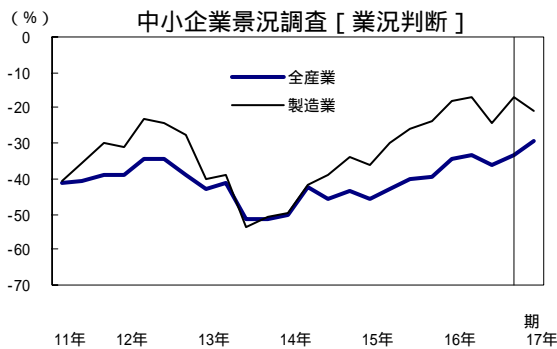
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年3月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

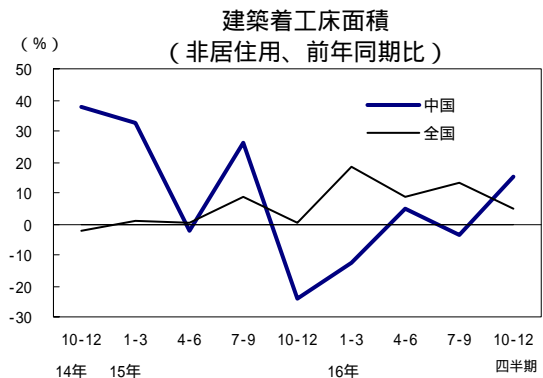
「どこも前年並みの売上高は何とか確保しているものの、内容面では売上単価を下げざるを得ないところが多く、状況は厳しい。特に納品関係は、メーカー直販や通販関連の侵食の影響が大きい(会計事務所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	15年度実績	16年度計画
全産業	24.3	19.2 (5.5)
製造業	52.5	20.9 (6.5)
非製造業	4.1	16.5 (3.7)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

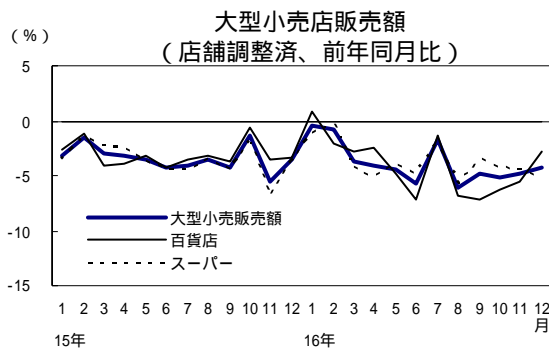
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、前月に続いて再び台風が上陸し、各店とも客足が伸び悩んだ。また、例年よりも気温が高く、主力である衣料品が落ち込み、全体でも前年を下回った。11月は、引き続き気温が高く、衣料品が前年同月比1割減と大きく落ち込み、全体でも前年を下回った。12月は、身の回り品がクリスマス商戦で好調だったものの、衣料品や飲食料品は振るわず、全体でも前年を下回った。

スーパーは、主力である飲食料品は前年並みであったが、暖冬により落ち込んだ衣料品の影響が大きく、全体でも前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

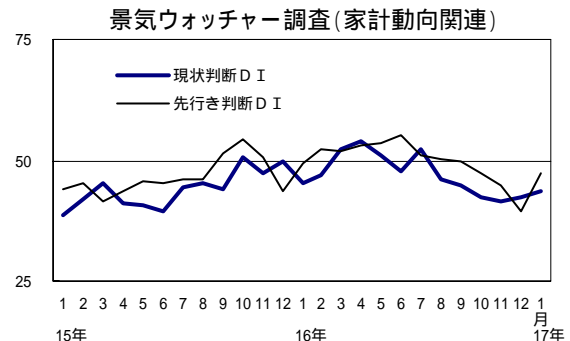
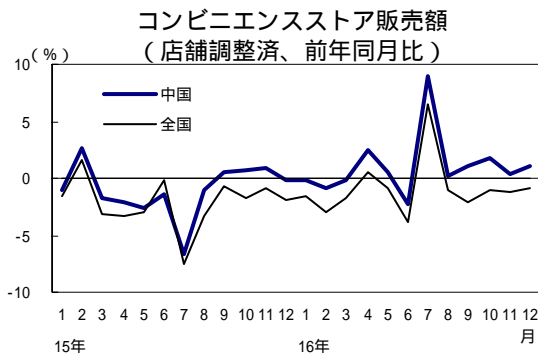
「来店者数は前年比102%だが、買上点数が伸びず売上は98%にとどまっている。またメモを持った客が非常に多く、電池などの防災対策商品が良く出ている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.7	4.7	4.2	4.7
百貨店	1.2	4.8	4.7	4.7
スーパー	2.0	4.7	3.8	4.7
コンビニ	0.4	0.3	3.2	1.1
景気ウォッチャー	48.1	50.9	47.7	42.2

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

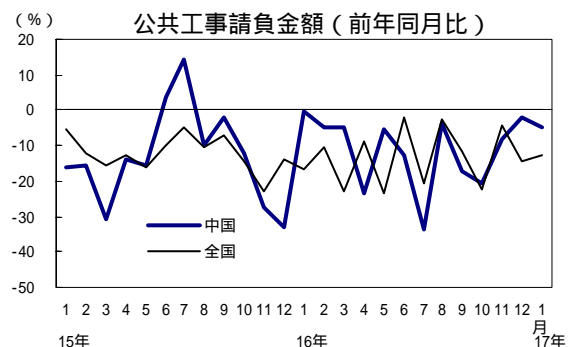
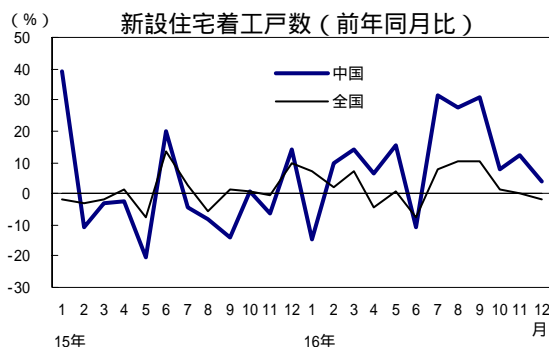
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家と分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

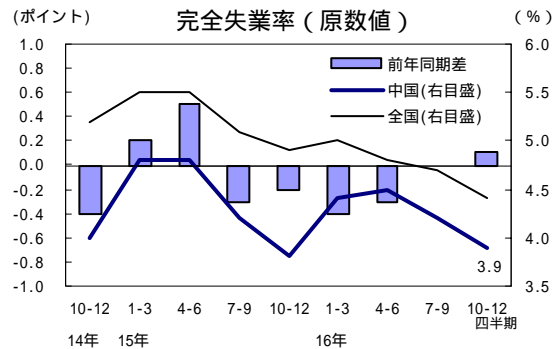
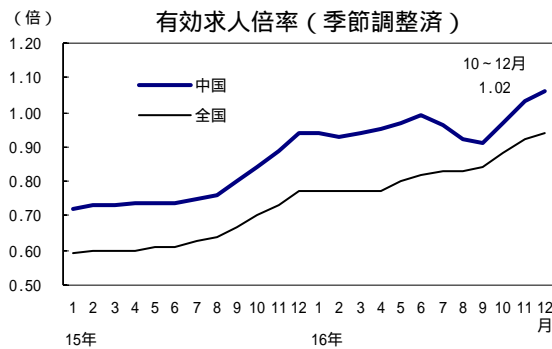


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連 (現状)]

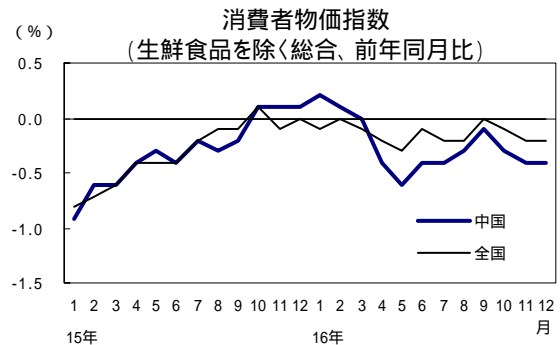
「採用を控えていた企業の求人が出始めたが、大きな動きではなく、当面この動きが続くのではないか (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	17年1月
倒産件数	140	164	153	140	45
(前年比)	40.2	24.4	7.8	2.1	10.0
負債総額	559	344	404	322	206
(前年比)	63.8	59.3	26.9	2.7	35.0



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・顧客である地元自動車メーカーの工場火災により絶好調から反転し、操業・売上は減少した。しかし、顧客回復策により、減少幅は最低限にとどまる見込みである(輸送用機械器具製造業)

<先行き>

・大河ドラマの影響で、多少でもこちらに客が流れてくる(観光型ホテル)

